

Guide & Tips



Vol.1



ミツバチの分蜂

オンツツジやミツバツツジが咲く5月初旬のこと、森林を背後にひかえた林縁で写真のような光景を目の当たりにした。これはミツバチの「分蜂(巣別れ)」といわれるもので、いわゆる引っ越しである。過去に一度車窓からこの状況を目撲したことがあるが、一瞬であったため、あまり気にも留めなかった。

さて、この分蜂というミツバチの営み。春から夏にかけて、新しい働き蜂が次々と誕生する。同時に、新女王蜂も誕生する。そうすると1つの群れに1匹しか存在できない女王蜂は、半数ほどの働き蜂を引き連れて引っ越しをする。新しい棲み家を求めて出ていくのは旧女王蜂の方である。この巣別れともいわれる行為は比較的暖かく天気の良い日に行われる。

巣を飛び出した多くの蜂は、新しい棲み家が見つかるまで電柱や木の枝などに蜂球と呼ばれる集団の塊をつくる。閉鎖空間を好むミツバチは、開けた野外では一時的に塊を形成する習性がある。新居を探す



ミツバチの蜂球

のは働き蜂の役目で、家屋の床下や雨戸の戸袋、人為的に設置した巣箱などを見つける。棲み家が見つかるとやがて蜂球が崩壊し、集団は新居へと次々に移動していく。

ハチミツという贈り物をいただく私たちは、身近なところでこのような営みが行われていることにあまり気づかない。高度に組織化され、社会性昆蟲の最高峰ともいえるミツバチの生活は、集団を維持し、種を存続させるために様々なふるまいをする。多くの生物が種の存続の危機にさらされている現在、このような小さな昆蟲の営みにこそ目を向け、共に生活していく環境づくりをしていかなければならぬと考える。

ひとりごと 川端 守の

NO.10 ぐあん 愚庵「巡礼日記」を歩く(その2)

義仲寺の愚庵

明治26(1893)年9月21日、京都清水の庵を出発した愚庵は、無動寺の坂を越えて大津に入る。伊勢を経て、三十三ヶ所を巡る93日間の旅の最初の宿は、琵琶湖畔の唐崎の松の下である。翌22日義仲寺を訪ねる。

天文22(1553)年、近江の国司であった佐々木高頼が石山寺参詣の途中、義仲の墓が淋しげな烟の中にボツンと立っているのを見て、その菩提を弔うために建立したのがこの寺である。伊賀とともに近江の地を深く愛した芭蕉は、大阪で発病、御堂筋の旅宿花屋で客死するが、その折、自らの遺体を義仲寺に運び義仲の側に葬るよう遺言する。木曾殿と背中合わせに眠ることになるが、このことが義仲寺有名な寺となる。芭蕉の絶句「旅に病んで夢は枯野をかけめぐる」の句碑をはじめ、二十数句の

句碑が建ち並ぶが、これらのほとんどが芭蕉翁のものであり、木曾義仲のために建てられたのは只一箇のみであるのを見て愚庵は「いと飽かぬ心地す」と不満を述べている。

木曾の最期は平家物語の中での武将たちの最期の中でも、最も哀切に満ちたものであり、琵琶湖畔の大津の繁華街のかたわらにたたずむ小さなお寺とともに、義仲とその人を慕った芭蕉の二つの生涯を思い浮かべてほしい。愚庵は芭蕉よりも義仲を慕ってこの寺を訪ねたのであろう。義仲、芭蕉、愚庵と並ぶ人たちの旅と生涯を思い浮かべて、この小庵にたたずんでいた日の私は、十数年前の一旅人であった。



お知らせ

旬のイベント情報を
お伝えするLINE配信に
ぜひご登録ください。

LINE@

ともだち
募集中!
check!



LINEアプリの友だちタブを開き、画面右上にある友だち追加ボタン[QRコード]をタップして、コードリーダーでスキャンしてください。

公式Twitter、インスタグラム随時配信中!

企画展、イベント情報、センター周辺のちょっとした話題など、随時更新しています。ぜひご覧ください。



熊野古道センターからのてがみ 2022年 夏号

- 発行日:2022年6月10日(季刊)
- 編集・発行:三重県立熊野古道センター(三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)
- 編集担当:小島
- 連絡先:T519-3625 三重県尾鷲市向井12-4
TEL 0597-25-2666
FAX 0597-25-2667
Mail info@kumanokodocenter.com
- 開館時間:午前9時~午後5時
- 入場料:無料
- 休館日:12月31日、1月1日(その他メンテナンス時休館)

熊野古道センター



検索

ホームページ
<https://www.kumanokodocenter.com/>
60000220610RK

三重県立熊野古道センター

The Letter from Mie Prefectural Kumano Kodo Center

からのてがみ



出
東
紀
州
の



尾鷲市曾根町(平成28年)



かつて一度だけ熊野古道センターにおいて「熊野文化のはじまり~縄文人がやってきた!~」と題して、三重県埋蔵文化財センターの協力のもと企画展を開催しました。平成21年のことです。縄文時代を中心に東紀州の考古遺物を集め解説・展示したものです。

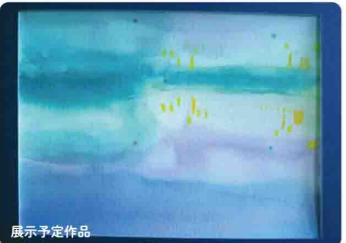
今回当センターでは13年ぶりに「東紀州の出土品展」と題して、現在までに東紀州の各地で発掘・採集された考古遺物を集め展示します。もしかしたら見たことがある遺物もあるかもしれません。こんなのがこの辺にあったんだという発見があるかもしれません。

熊野古道が参詣道となる以前の東紀州をあらためて見つめ直し、大昔に思いをはせる機会に来ていただけたらと思います。

曾根遺跡(尾鷲市)出土の深鉢

曾根遺跡調査(昭和30年)

旬の企画展



えのもとひさ展 吊す

2022年7月2日(土)～9月4日(日)

●会期中無休
時間 午前9時～午後5時
入場料 無料
場所 企画展示室

付属イベント

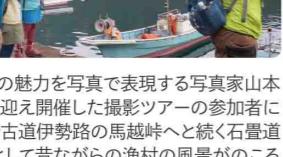
2022年7月23日(土)

表現すること
ドローイング
時間 午後1時～3時
参加料 500円(材料費・資料代)
定員 20名(要申込・先着順)
受付 令和4年6月8日(水)～7月9日(土)
対象 小学生以上
(小学3年生以下は保護者同伴)

ロビー展 写真家 山本まりこさんと行く 熊野古道撮影ツアー参加者作品展

2022年6月1日(水)～6月30日(木)

●会期中無休
時間 午前9時～午後5時
入場料 無料
場所 展示棟ロビー



熊野古道を歩きその魅力を写真で表現する写真家山本まりこ氏を講師として迎え開催した撮影ツアーの参加による作品展です。熊野古道伊勢路の馬越峠へと続く石畳道や、尾鷲市の飛び地として昔ながらの漁村の風景がのこる須賀利町を舞台に撮影した風景写真をご紹介します。



スタッフコラム

な歩き方を学びながら三木里～二木島までを無事歩ききました!盛り沢山の2日間の連続講座は秋にも開催予定です。興味のある方は是非チャレンジしてみて下さい!



ある程度山歩きに慣れた中級者の方に向かって「山歩きステップアップ講座」を開催しました。1日目は長距離やアップダウンの繰り返しにも耐えられる歩行技術の他、火起こし・炊飯・山中での予期せぬケガへの対処法などを学びました。2日目の歩行練習はあいにくの天気でしたが、雨で濡れた石畳の安全

新型コロナウイルスの感染状況により、内容は変更になる場合がございます。
●詳細はホームページでお知らせします。

お申込み・お問い合わせは、
お電話か直接 熊野古道センターへどうぞ! TEL.0597-25-2666

イベント情報

体験学習

夏休み思い出づくり体験教室



夏休みの思い出に
モノづくり体験してみませんか?
銅鏡づくりはセンター初登場です。

銅鏡(青銅の鏡)づくりは、
弥生時代からある古い技術です。
今回の体験では、低い温度でとける
金属を使って製作します。

2022年8月12日(金)

バードコールは鳥を呼ぶ道具です。
木片に金属のボルトをねじ込んで作ります。
ボルトを回すと鳥の鳴き声のような
音が出来ます。

2022年8月12日(金)

時間 ①午前10時30分～11時30分
②午後1時30分～2時30分

参加料 200円

定員 ①10名／②10名

(要申込・応募多数の場合抽選)

場所 体験学習室

講師 熊野古道センター職員

受付 6月29日(水)～7月29日(金)

午後5時まで



銅鏡づくり体験

2022年8月13日(土)

時間 ①午前10時30分～11時30分
②午後1時30分～2時30分

参加料 200円

定員 ①10名／②10名

(要申込・応募多数の場合抽選)

場所 体験学習室

講師 熊野古道センター職員

受付 6月29日(水)～7月29日(金)

午後5時まで



熊野古道自然学校 親子で親しむ川の生きもの



身近な川にすむ水生生物の観察を通して、川の水環境を知り、自然に恵まれた地域であることを実感しましょう。

2022年8月27日(土) ●雨天の場合8月28日(日)

時間 午前9時30分～正午
参加料 500円(保険料・資料代)

定員 10組(要申込・応募多数の場合抽選)

対象 小学生と保護者

場所 矢ノ川(矢ノ川橋周辺)

講師 東邦光氏(熊野自然保護連絡協議会会員)

受付 7月13日(水)～8月13日(土)

午後5時まで



ハゼ、エビ、ヒョウゲなど

ETOOTOTO 夏の夕涼みらいぶ

涼やかな夏の宵にぴったりのピチライブを予定しています。どなた様もお気軽にお立ち寄りください。

2022年8月20日(土)

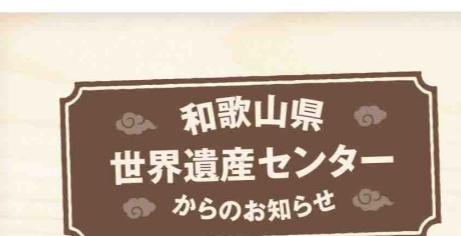
時間 午後6時30分～7時30分

参加料 無料

定員 なし(申込不要)

場所 映像ホールまたは交流棟小ホール

出演 ETOOTOTOの皆さん



お問い合わせ先 和歌山県世界遺産センター
住所 和歌山県田辺市本宮町本宮100-1
TEL 0735-42-1044
FAX 0735-42-1560
E-mail e0624002@pref.wakayama.lg.jp

爽やかな日差しが降り注ぐ初夏となりました。

当センターでは、世界遺産の保全活動である「道普請」を実施しています。「道普請」とは、文化財専門職員の立会いのもと、企業や学校の方々などにご協力をいただき、企業のCSR活動や、世界遺産の理解と保全の意識を高めるための教育活動として、洗掘されてしまった古道に土を補充したり、側溝や横断溝の清掃をしたりする活動です。今年度もすでに多くの方々に心地よい汗を流していただきました(右記参加団体と写真参照)。

また、世界遺産を次世代に継承するため、子供たち向けに世界遺産講座(座学)と現地学習を組み合わせた「次世代育成事業」も秋に実施する予定です。

詳しくは当センターのウェブサイト
<https://www.sekaiisan-wakayama.jp>をご覧ください。
またご不明な点があれば当センターへお問い合わせください。



令和4年3月～5月中旬までの道普請参加団体(敬称略)
ファムツアーや田辺市熊野ソーリーズムビューロー、一般財団法人さわかみ財団、熊野古道を歩く道普請のなかまち、三菱電機株式会社冷熱システム製作所、富士古河E&C株式会社
●諸事情により、遅延または中止、日程及び内容を変更する場合がございます。